

うだちから

「うだちから」とは、宇陀に由来からある地域コミュニティの力(宇陀力)のことです。このコーナーでは、市が取り組む「まちづくり」やNPO団体などを紹介します。
 問 政策推進課 ☎82・3910/IP☎88・9094

① みんなが集う！ 楽しみが戻ってきました！

「おおうだ南部地域まち協」

7月16日(日) 宮奥ダム水辺公園において、「南部ふれあいデー2023」を4年ぶりに開催しました。午前中は、地域の飲料水供給を担っている宮奥ダムや水辺公園周辺の草刈作業を行い、午後からは、食事や芸能人のお笑いを楽しみ、のど自慢ふれあいカラオケ



▲みんなで楽しくビンゴゲーム

やみんなまでビンゴ大会などの交流イベントを行い、久しぶりのふるさとのお祭りでした。

子どもから高齢者までの世代間交流を図ることにより、地域力を高め、活力みなぎるふるさとづくりを目指す取り組みとなりました。



▲参加者最高齢者(97歳)のカラオケ

くりを目指す取り組みとなりました。

「大宇陀政始まち協」

7月22日(土) 旧守道小学校運動場で「多世代交流・夏まつり」を6年ぶりに開催しました。家族連れや友達同士、近所同士など、多くの皆さんに参加していただきました。また、夏休み最初の土曜日ということもあり、幼児を含め、子どもたちもたくさん来てくれました。美味しい食事やみんなで盆踊り



▲たくさんの方が参加されました



▲子どもたちもみんなで盆踊り

り、親子で花火を楽しんでいたが、子どもたちには、当てものやボールすくいなども企画しました。この夏祭りのために、早くから打ち合わせや準備を行い、皆さんに楽しんでもらえるよう、まち協スタッフや役員がおもてなしを行いました。参加された皆さんは、久しぶりのお祭りを楽しんでおられました。

② イチョウの広場 キャンプ場オープン

「田口地区まち協」

室生地域南部に位置する田口地区で、7月16日(日)にオートキャンプ場がオープンしました。令和3年に奈良県農協田口出張所の跡地(田口診療所の隣)を当まち協が借り受け、「地域の活性化および住民の憩いの場にしよう」と企画運営部会を立ち上げ、キャンプ場の開設に向けて協議を重ねてきました。

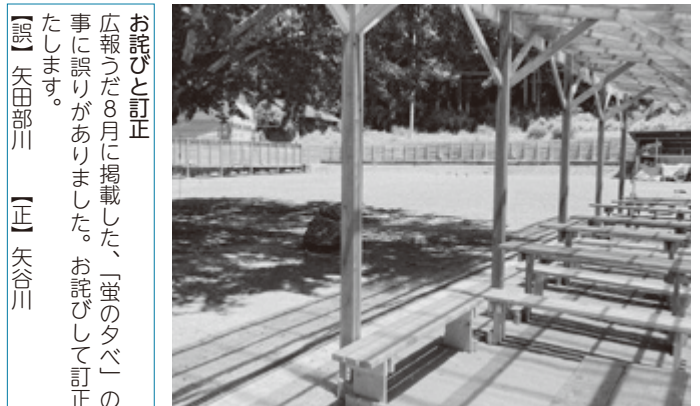
令和4年から、いよいよ現地での作業を開始し、土地の整地、芝



▲開会式典の様子

生の植栽、バーベキュー棟およびトイレ・シャワー室などを整備し、今年の4月中旬からは試験的に営業を開始したところです。

オープン当日は、開会式典を開催し、各関係者の方々の挨拶や施設案内のほか「室生中学校吹奏楽部」の皆さんに演奏で花を添えていただきました。おかげさまで、利用者からも好評をいただいております。今後はジビエ肉や地産物の加工品なども順に販売していく予定です。当まち協では、今後も遊休耕作地などを活用した、ワクワクするような企画を考案中です。キャンプ愛好家の方はもちろん、お近くの方もぜひ一度お越しください。



▲オートキャンプ場「イチョウの広場」

お詫びと訂正
 広報うだ8月に掲載した、「蛍の夕べ」の記事に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
 【誤】矢田部川 【正】矢谷川



「ホオズキ」

橙呂根などの名前で記載されているほど、非常に古くから使われていた薬草です。真っ赤に熟れたホオズキの種子を除き、果実の皮を口に含んでホオズキを鳴らすという遊びをした経験のある人もいます。なぜそんな遊びがはやってたのでしょうか。衛生状態が悪かった時代には、いろんな病気がはやりまます。どんな病気も、最初は風邪の初期のような症状が

多く、熱が出たり、のどが痛くなったり咳が出たりします。そんなとき、ホオズキを鳴らして遊んでいると、自然に症状が改善するのです。ホオズキの実の効果は食べることで、寄生虫の駆除役となり、腹痛や肩こりを防ぎ、小児の疳も改善できます。果実の汁を塗布すると、肩こりが治るほかイボや外耳炎も改善できる優れものです。



薬草道通(やくそうどうしゅうよう)

※当市で「薬草活用講演会」をしていたいた村上光太郎先生の連載より一部抜粋